



平成18年7月豪雨災害

「周年追悼式」

7月19日、一瞬のうちに8名の尊い命を奪った土石流発生から一年が経ちました。

みなと保育園南側の廃川敷を会場に行なわれた平成18年7月豪雨災害一周年追悼式には、ご遺族、地元住民ほか約200人が参列し献花を行い、「鎮魂の火」が焚かれ、犠牲者のご冥福を祈りました。

岡谷市は、安全で安心して住むことができるまちづくりを市民総参加で推進していきます。

主な内容

新病院建設	2	みんなのページ	12
太鼓祭り	4	社協だより	14
くらしと市税	6	インフォメーション(おしらせ)	18
男女共同参画	8		

「文化センター跡地」

市では、市立岡谷病院と健康保険岡谷塩嶺病院を統合した新病院の建設に関し、文化センター跡地で実施した活断層調査の調査結果概要および新病院の建設予定地は文化センター跡地とすること、また、現時点における新病院構想(案)を7月4日の市議会全員協議会に報告しました。

建設候補地の検討

新病院の建設候補地については、岡谷市病院統合基本計画(平成17年度策定)で示した、文化センター跡地、現市立岡谷病院敷地、駅南土地地区画整理事業用地の3候補地のほか、その中間案やその他の候補地を含め検討を始めました。

検討を進める過程で、候補地を計画で示した3つに絞り、新病院構想(案)で想定する建物がいずれの候補地でも建築可能であると判断し、候補地の比較検討を進めました。

活断層調査

しかし、今年1月、候補地の一つである文化センター跡地に活断層がある可能性が指摘されたことから、4月に、地質学や活断層調査の専門家5名からなる岡谷市活断層調査委員会を設置し、敷地内にA・B2本のトレンチ(調査溝)を掘り、活断層の有無等の調査を

行いました。(図1参照)

第1回調査委員会は5月18日に行われ、現地調査の結果「目視した範囲では、いずれのトレンチでも明瞭な地層の食い違いは見られなかった」との所見が出され、また、6月25日に行われた第2回調査委員会では、現地調査時に採取した土壌サンプルの年代測定結果を踏まえ、市に対し、壁面観察結果が報告されました。

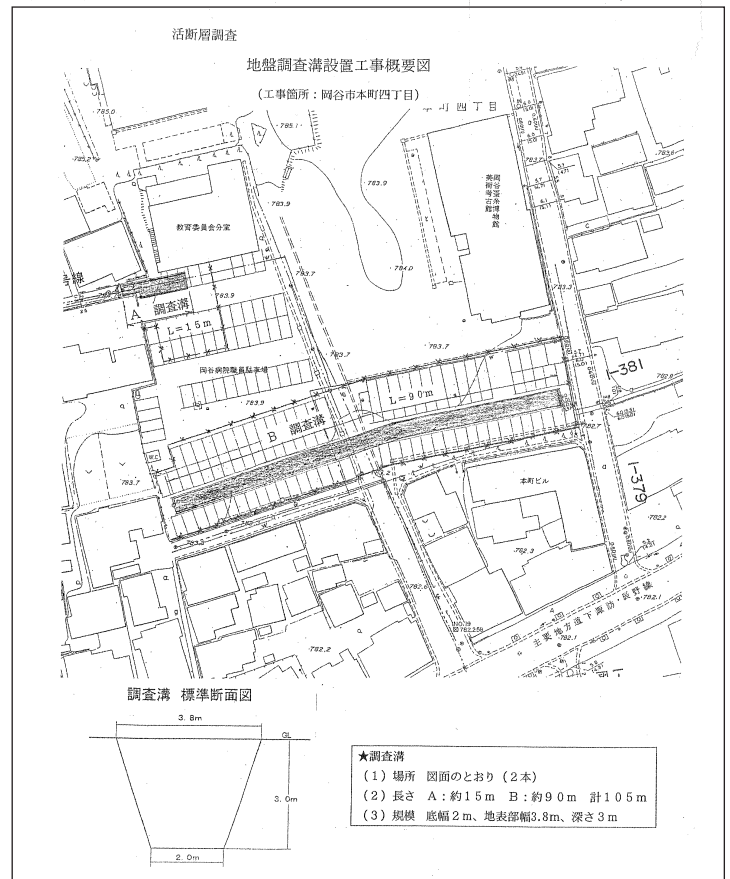
報告は

「A、Bトレンチ壁面を観察した結果、いずれの壁面でも、露出したこれらの地層群中に、それらが断ち切られて食い違いを起したことを示す痕跡、すなわち、それらを変位させている断層は認められなかった。また、トレンチ底直下に断層が存在することを示唆するような地層の変形や乱れも検出されなかった。

以上から文化センター跡地敷地内では、近い過去、少なくとも完新世(約1万年前から現在まで)において地表地震断層が生じるようなことはなかったと思われる」との内容でした。

この報告を受け、市としては、文化センター跡地を今までどおり、病院建設候補地とすることは問題ないと判断し、改めて3つの候補地の比較検討を行いました。

(図1)



△Bトレンチ全体図



△Bトレンチでの調査の様子

統合新病院の建設予定地は

**建設予定地は文化センター跡地
駐車場は現岡谷病院敷地へ**

建設予定地の決定にあたっては、各候補地における立地性(交通の便、駐車場の確保)、自然条件(活断層)、都市計画上の観点(用途地域)、医療的見地(インターチェンジからの距離、診療への影響)、施設配置(高層化、敷地適正)、病院機能面(管理、機能拡張性)、建設経費(用地確保、建物建築費)、建設期間(工事期間、工事環境)、病院経営面(患者確保)、他の公共施設との関連(移転を要する施設、市財政への影響)、将来展望(まちづくり、建替え)、市民意見(パブリックコメント等)などの観点から多角的に検討を行いました。

結果として
①病院事業として広い敷地が確保でき、将来的にも時代要請に応じた柔軟な活用(建替え、増築等)が図れること。

②市民(利用者)の利便性が高く、市民要望も強い場所であること。

③統合新病院として必要な機能を備え、特化した医療の実施ができること。

④平面駐車場の確保が図られること。

⑤行政や文化の拠点であり商業の集積地でもある市役所周辺地区として位置付けられ、現に存在してきた事実と将来にわたって

その機能が維持されること。

以上の理由から、統合新病院の建設予定地は文化センター跡地とし、駐車場として現市立岡谷病院敷地を利用していくこととしました。

新病院建設に向けて

新病院を文化センター跡地に建設する場合、その前提となる蚕糸博物館・美術考古館の移転については、旧庁舎等を含め、今後、幅広く検討していく予定です。

また、財政面については、厳しい状況ですが、市民の生命と健康を守る拠点となる市民病院を将来にわたり存続させていくため、創意と工夫・努力を重ね、行財政改革を確実に推進し、健全財政を保持できるよう努力していきたいと考えていますのでご理解・ご協力をお願いします。

◆募集

企画課 内線1524
新病院建設に関するみなさんのご意見を募集します。

ご意見は郵送、FAX、Eメールでお寄せください。用紙等は自由ですが、必ず住所、氏名、年齢、電話番号を記入してください。

提出先：〒394-8510 幸町8

番1号 岡谷市役所企画課宛

FAX 24-0689

E-mail: kk@city.okaya.nagano.jp

岡谷市病院事業新病院構想(案)

新病院の建設候補地の検討に際し、その基礎となった岡谷市病院事業新病院構想(案)は右のとおりです。

この新病院構想(案)は、医療制度の過渡期において先行きが不透明の中、現時点で考えられる自治体病院としてのあり方や両病院が培ってきた特徴等を考慮し、厳しい医療環境変化に耐えうる病院経営の基本的な理念・方針等をまとめたものです。

今後、新病院建設に向けた、基本構想、基本設計業務において、医療環境の変化を慎重に見極めながら、その都度、修正を加え、より実現性の高いものへとしていく予定です。

新病院構想(案)の修正は、医師会や他の病院等関係機関との連携・調整を図るとともに、市民のみなさんの意見をあらゆる機会を捉えてお伺いし、最終的に決定していきたいと考えていますのでご理解・ご協力をお願いします。

【問合せ】

岡谷市病院事業経営企画課 ☎23-8000(内線2301)

E-mail: oh@city.okaya.nagano.jp

岡谷市病院事業新病院構想(案)

1. 理念
「人々に愛され、信頼される病院を目指します。」
2. 基本方針
 - (1) 地域医療の展開
 - (2) 特化した医療の実施
 - (3) 保健医療活動の展開
3. 基本方針の具体的な施策
 - (1) 地域医療の展開
 - ①一般救急医療(一次、二次救急)の充実
 - ②一般医療の充実
 - ③病診連携の強化
 - (2) 特化した医療の実施
 - ①循環器センターの設置
 - ②糖尿病センターの設置
 - ③その他医療の検討
 - ・結核診療
 - (3) 保健医療活動の展開
 - ①検診センターの設置
4. 建設予定地
文化センター跡地(現市立岡谷病院敷地は駐車場等として利用)
5. 診療科
下記に掲げる診療科は、現在、両病院で診療を行っている科及び標榜科目を掲げたものであるが、今後の医療制度の動向、医師確保の状況及び病々連携等を考慮する中で決定していく。
内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理科
6. 病床規模
一般病床 300床 程度
7. 外来
 - ①一般、専門外来
 - ②人工透析
8. 諸元における各検討項目
 - ①緩和ケア病床の検討